

ちゅんちゅん新聞

4月6日
木曜日

鳥たちの気持ち

鳥たちが面白い動きをすると、「今どんなことを思っているのか」と気になりませんか？ 鳥たちを見て、その鳥がどう思っているのかが分かると、鳥との距離が縮まったような気がします。

気持ちがわかると、鳥たちへの接し方を工夫することができます。



どんなふうになっているか	思い	説明
カキカキされたとき、眼を細める	「あー、気持ちいい……。」	リラックスしている状態です。犬や猫もそうですが、安心していないと、眼を細めません。力が抜けるので、くちばしが半開きになる個体も。
瞬きをたくさんする	「緊張するなあ。」	緊張していたり、ストレスを感じている時に、パチパチと速い瞬きを繰り返します。
くちばしを長い間、開けている	「暑いよ～！」	鳥は人間のように汗をかいて体温を下げるできません。暑いときは口を開けることで、口から熱を逃がしているのです。野鳥も夏に口を開けているのが見られます。
ものをかじったり、つついたりする	「これは何だ？ 確認しよう。」	鳥のくちばしは、人の手と同じくらい優れており、質感や温度まで分かります。だから、くちばしで色々なものを触って調べます。
エサを吐く	「大好きだよ！ 愛してる！」	オスがメスに吐き戻しを与える「求愛給餌」を行っているのです。自分の大事な食べ物を相手に与えることで、「プレゼントだよ！ 愛してるよ！」ということを表しているのではないのでしょうか。ただし、首を左右に振って吐くのは病気です。
くちばしを細かく動かし、ギョリギョリと音をたてる	「眠いなあ。」	インコやオウムは寝る前に、下くちばしの先を上くちばしの裏にあてて研ぐ習慣があります。その時に、ギョリギョリと音がするのです。
止まり木を行ったり来たりする	「遊びたいな、うずうず。」	エネルギーがたまってテンションが高いときや、遊んでほしいときです。遊んであげたり、なにか刺激を与えると喜びます。

かんちょうの昔話おはなし会スペシャル

ちゅんちゅんの司会	初	第一章	「清郎と魚コ」かんちょうの朗読
ちゅんちゅんの一言	間	第二章	たのしい音楽会ザ・ツリーポットの演奏
ちゅんちゅんの一言	了	第三章	「雀コの米作り」朗読+演奏

16号でチラシを載せた「かんちょうの昔話おはなし会スペシャル」を開催しました(内容は上の表)。私は司会をやりました。私の知り合いも何人か見に来てくれました。

私は第三章の「雀コの米作り」朗読+演奏が一番良かったと思います。読むのはかんちょうさんだけではなく、ツリーポットの2人も、文章に音楽を付けて読んでくれました。セリフだけかんちょうさんが言って、文章はツリーポットの2人が音楽をつけて読んでくれた場面もありました。かんちょうさんの朗読だけの「清郎と魚コ」よりも楽しく、場面が想像しやすかったです。とても良いイベントになりました。



イベントに参加してくれた人の中には、「かんちょうさん、ちゅんちゅん、ツリーポットのもえちゃん&なおちゃんで、みんな全然年齢が違うところも、面白かった。」「チラシを見て、『行ってみようかな』と思って参加したら、とても楽しかった。」と言ってくれた人もいました。

第一章の「清郎と魚コ」の朗読では、図書館で開催したせいもあり、静かでしたが、第二章があったことで、雰囲気が変わり、楽しい空気になりました。また、第二章があったことで、第三章を始めやすかったと思います。

鳥のおなか自慢

エナガのおなかは 真っ白で
雪の国の妖精みたい
おなかの下は
ほんのりやさしい ピンク色

ヤマガラのおなかは オレンジで
かわいくって 太陽みたい
おなかの真ん中は
ちよつとだけだが 白色だ

キビタキのおなかは 真っ黄色
光りかがやく 星みたい
お腹の上は
黄色に近い オレンジだ

おながが自慢の 鳥さんたちは
いつも、いつも いそがしそう
「オレのおなかは こんな感じ!」
「ぼくのおなか、きれいでしょ!」

詩

ちゅんちゅんが作った

